

退職して1年半

2014年3月末に定年退職して、早いもので1年半が過ぎた。とくに感慨もないが、こうして何か書きとめておかないと、なんだか不安になる。

大学教員を退職したからと言って、これまでの生活や意識を一変できるわけでない。35年の教員生活、その前の浪人時代を含め10年近い大学院の研究生活から、そう簡単に「おさらば」できるはずもない。講義や会議など時間刻みの予定から解放されたが、生活のリズムは退職前とほとんど変わっていない。リズムを変えないように努めてきたと言った方が正確だろう。

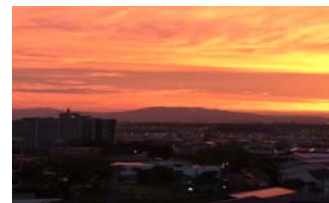
毎朝4時には起きる。そのぶん早く寝る。起きてすぐに机に向かい、レポートを書く。初めから書くこともあるが、書きかけの原稿に手を入れることの方が多い。4年ぶりにレポートを「再開」したのは、昨年7月末からだ。同僚だった石川洋明さんが6月末に亡くなり、何か書きたい、書かねばと思ったのが「きっかけ」だ。彼については10本のレポートを書いてきた。レポートを書き、私のサイトに掲載している。毎朝「山田明レポート集」にアップしてもらっている「教え子院生」「ネット先生」である中村さんに、あらためて感謝したい。

この17日が誕生日であった。誕生日と言っても嬉しくはないが、今年はずこし違った。京ちゃんご家族からクラッカーを鳴らし、嬉しいプレゼントをもらった。その時は頭が「くらっか」ときた。でも翌日、悲しいメールが届いた。まさに気が「めいる」だ。同僚だった、まだ50代前半の教員が亡くなった。あの元気な彼女が「どうして、また」というのが率直な気持ちだ。葬儀でもゼミ生らの悲しげな様子に心が痛んだ。まだ若い現役の有能な教員が亡くなるのは、何と言っても辛く悲しい。

まだまだ、これからだ。退職して時間を自由にできるようになり、恥ずかしながら、自分の「勉強」不足を嘆いている。読みたい本、読まねばならない本が次々と出てくる。原稿をどんどん書いて、わが本も出版したい。

なんといっても「安倍政治」の動きを見ていると、負けてはおれない気持ちになる。「安倍政治」は憲法をはじめ戦後政治の総決算を進めている。それは戦後に生まれ、それなりに人生を歩んできた自分が否定されるように思える。

写真は9月24日朝5時半に自宅から撮った写真だ。久しぶりに朝焼けの空が美しい。なんだか遠くの空に「希望」を見る思いだ。これからも研究を続け、発信していきたい。



(2015年9月30日)